

## 会員企業紹介

### 訪問 インタビュー

# 参加する事に尽きる!



## (株)総合環境分析 北関東支社

支社長 中村 和弘 氏 (太田支部所属)

### ▼会社概要

当社は一九八三年に神奈川県で設立しました。水道の水質検査(飲料水)や河川等の水質、土壌、大気といった環境調査分析を専門に行っています。北関東支社は一九八九年に業務を開始しました。売上の柱は水質調査で、全体の七割を占めます。

健康や環境負荷への関心が高まり調査業務が増加する一方で、吸収合併などで検査機関も減少しつつある成熟産業と言えます。業界としては確実に淘汰が進んでいます。

### ▼自己紹介

私は生まれも育ちも邑楽町です。学生時代からサッカーを続けており、今も社会人サッカーや休日に息子と楽しんでいきます。

入社の上のきっかけは、工業化学を専攻していたので「地元で化学に携わりたい」と思い、北関東支社のある総合環境分析に応募しました。無事に一九九六年四月に入社し、北関東支社に配属され今に至ります。

### ▼同友会入会のきっかけ

初めて例会に参加したのは、現会長(石渡裕氏/神奈川同友

### 会元代表理事、中同協・政策委員長)が、群馬同友会で講演をした時です。その後、二〇一〇年九月に支社長を拝命した際に「同友会に入会して欲しい」と提案され、二〇一一年二月に入会しました。

入会直後は積極的に参加していませんでしたが、あるグループ討論で、先輩経営者が自社の悩みを赤裸々に打ち明け、討論参加者が熱心に相談に乗る様子を見て「自分も本音でぶつかって良いんだ」と思えてからは参加率が上がりました。

### ▼入会後一番変わったことは?

例会での気づきや、支部の間からの厳しくも的確な指摘が、職場環境改善のきっかけになり、社員の自主性や積極性向上にも繋がりました。さらに定着率も上がり、私の業務を分担



### する事で営業体制を強化でき、結果として売上増として表れてきています。即効性はなくても、同友会の学びと気づきを共有することで、少しずつ社内浸透し「良い会社」に近づいている感覚です。

▼社長(石渡裕氏/神奈川同友会)との関係性は?  
現社長は、二〇二〇年九月に事業承継しました。そのタイミングで経営指針書を作り直し、会社概要で触れた「淘汰が進む業界」で勝ち残る為に成長が必要だということを、三ヶ月間本気で指針作り打ち込む姿で示してくれました。私は支社長として、その経営指針を自社で実践していこうと、改めて強く思う事ができました。

### ▼同友会の生かし方、又は要望などありますか?

参加する事に尽きると思えます。他社を知る中で新たな気づきや違う視点を持つ事ができます。そして今変わらなくても実践し続ける事です。

要望としては、経営者と同じ目線で社員が参加出来る例会があると良いと思います。太田支部では例会の企画運営にも携わ

中!



### ▼会社・同友会それぞれの展望

北関東支社は十八名にまで人員が増えてきました。幹部社員を育て、もう一段上の組織を目指します。

会社も同友会も、自分一人ががんばるのではなく、みんなで学んで成長したいと思っています。社長、代表理事のビジョンを共有していきたいと思えます。

取材の様子や紙面に載せられなかった質問なども、群馬同友会のHPに掲載予定。顔の見える広報誌を目指して今日もどこかで取材中!

所在地 邑楽郡邑楽町中野 1 2 7 - 6  
連絡先 TEL 0276-89-0745  
URL https://www.s-kb.co.jp/company/kitakanto.php

広報委員の取材の様子や紙面に載せられなかったQ&Aをご紹介します！（抜粋）

（Q：広報委員／A：中村支社長）

Q：検査する土や水の採り方は決まりがあるのですか？



A：土や水も採り方には決まりがあります。土の種類によっても異なりますし、土の表面のみを採る方法と、表面を除いて深さ何cmの土を採る方法などもあります。また、ある程度の広さの土地を調べる時などは、5地点混合法

という方法で検査対象の土地の5つの地点から土を採取し、混ぜ合わせてその土地の土として検査します。偏りなく平均的なものを採るという大前提があります。これは水（河川や湖）なども同じで、川の中心は流れているのでキレイでも、両端は流れが淀み水質が悪化していることもあるので、流心の表面から何cmだったり、水深の何割りの深さ、といった決まりがあります。



Q：群馬県の水はどれだけきれいなのか？

A：場所にもよりますが、基本的にきれいだと言えます。これは感覚的なものではなく、群馬県が毎年発行している環境白書というものの中に、河川の結果として記載されています。上流は汚れの指標のBODという項目が、低い値できれいです。ただ、東毛地区は高い値を示しています。

水に限った話ではありませんが、環境問題については継続的な調査が必要だと言えます。

※環境白書は群馬県のHPから確認することができます。

Q：経営理念についてどう捉えていますか？経営者側、社員側両方の視点を持っていると思いますが、社員側の視点で聞かせてください。

※同社の経営理念「働きがいと誇りを胸に 世界の安心を計り 幸せを創造します」



A：今の経営理念は現社長が全て作ったものですが、これまでは会長が作った理念でやってきました。社長交代のタイミングで「新たにつくりなさい」ということで作り直したものです。

“働きがいと誇り“については、以前の理念にも使われていた文言で、それを大事なキーワードとして残したことも聞いています。簡潔で分かりやすい

言葉だと思います。神奈川同友会の「経営指針作成部会（経営指針をつくる会）」はスパルタだと聞いていますし、実際に様子を見学に行かせてもらったこともあります。成文化した理念にたどり着くまでの過程は社内でも見えていますし、相談も受けたりしていますので余計によくできていると感じます。